

- II-5 当科における過去4年間の子宮体癌症例についての検討
 ○田村 良介 田中 誠悟 石原 佳奈 湯澤 映
 高橋 秀身
 (大館市立総合病院・産婦人科)

- II-6 進行食道癌を合併した
 急性骨髄性白血病を治療し得た1例
 ○田中 円葵¹ 小笠原 仁¹ 中川 悟²
 鎌田 耕輔³ 山居 聖典¹ 相澤 弘¹
 吉原 綾子¹ 木村 あさの¹
 (大館市立総合病院¹ つがる市民診療所²
 独立行政法人国立病院機構弘前病院消化器血液内科³)

- II-7 地域医療を考える 医食充大作戦
 ○伊藤実喜 (医療法人健永会 明日実病院)

超高齢化対策として、6個の生活要素が重要、漢字一文字で示すと食(栄養)動(運動)排(排泄)温(入浴)買(購買)交(交流)となる。特に食は生きる基本であり、食を求めて買い物する事は楽しみ交流があり健康の源となる。

ところが、ここ大館は雪深く足腰の弱い高齢者にとって医療や商業施設への移動手段は困難になりつつある。全国に700万人とも言われている医療買い物困難者、ここ大館では具体的な予想数や対策がなされていないのが現状であった。また、少子化で介護職員も不足している現状打開策も急がれる課題である。

そこで、明日実病院では医食充大作戦としてプロジェクトチームを結成して、患者さんにアンケートをお願いして、患者マップを作成し、いとくショッピングモールとコラボして地域医療の医と食の充実を模索した。

具体的には病院から送迎車でご自宅までお迎えして→病院にお連れして→診療→待ち時間の間に買い物リストをモールに連絡します→調剤薬局 経由でモールで買い物受け取り→ご自宅まで送り届けます。患者さんには好評で現在症例を増やして検討し、随時学会等で報告予定です。

また今後介護職員不足は避けられないので、その対策として、フィリピンの方々との国際交流事業(医療ボランティア)を行っています。今回はフィリピン台風被害地区で医科歯科のメディカルミッションを行いました。将来、マニラに介護施設を開設し、介護士を育成予定です。外国人の介護支援育成事業は日本の医療施設がもっと積極的に取り組む課題だと思います。

まとめ 地域医療を充実させる課題

- ① 衣食住から医食充の時代へ
- ② 食・動・排・温・買・交を支える医療へ
- ③ 買い物困難者→低栄養→病人増加を救う医療へ
- ④ 食の宝庫ショッピングモールを活用する医療へ
- ⑤ 国際交流を実践する医療へ